

普賢 徒然寺報 Fugen



発行所：天台宗高龍山明王院普賢寺
発行人：普賢寺 広報部
〒183-0004 東京都府中市紅葉丘2-26-4
電話 042-369-2278 /FAX : 042-336-2610
URL : http://www.fugenji.com
メール : info@fugenji.com



当山本堂

ご挨拶

平素、皆様におかれましては普賢寺をご支援承りまして、誠にありがとうございます。この度、普賢寺の寺報を始めるといいたしました。日頃より、皆様とは個々には色々なお話をさせていたただいておりますが、中々お寺として発信をする機会がありませんでした。春秋の彼岸と夏の施餓鬼会等行事毎に発行してまいります。皆様との距離を少しでも近いもの出来ればと思ひまして、発行に至りました。

- 1. さらっと読める
- 2. かたくなしくない
- 3. 親近感がわく

方針と致しましては、下記の3つを踏まえて、編集してまいります。
 一方、テレビでもお坊さんバラエティ番組「ぶっちゃけ寺」やお寺でカフェやヨガ、祭り、コンサートなど、若い世代を中心に、仏教とお寺の新たな可能性を模索する動きも見られます。江戸時代には、いつても相談ができる駆け込み寺があったり、教育機関としての役割を果たした寺子屋があったり、お寺は今よりも身近な存在でした。今はお墓参りや法事の時にしかお寺と接しないことも多く、お寺としても寂しい次第です。

普賢寺はこれからも親しみやすいお寺として精進してまいります。皆様方とお会いできたのも、大いなる仏縁の恩恵です。一緒に普賢寺を盛り上げていければ幸甚です。

普賢寺ってどんなお寺？

今回の特集は皆さんのお寺、普賢寺がどんなお寺かを、寺の名前から掘り下げて説明したいと思ひます。さて、寺には〇〇寺だけではなく、正式名称があります。例えば、浅草寺の正式名称は、金龍山伝法院浅草寺です。普賢寺は高龍山明王院普賢寺です。これらを分解すると、山号、院号、寺号に分けられます。
 一寺一の名前は、古代中国に遡り、元々宿泊するための役所を指しておりました。そこに、僧侶が住み着いたので、その場所を寺としたのです。そして、中国では山に寺を建立することが多かったため、山の名前をつけるようになりました。日本仏教が渡来した時にも、平地でありながらも山号をつける風習が伝わり、変遷を遂げながら現在にいたっております。院号と寺号は諸説ありますが、院号がそのお寺の特徴をよく示し、寺号は総称と考えればわかりやすいです。
 では、普賢寺の正式名称を見てみましょう。

高龍山 明王院 普賢寺

普賢寺は、1469年に墨田区本所に開かれました。浅草から近いその地では、浅草寺の末寺(属する寺)として代々継続しておりました。山号を見ると、それがわかります。浅草寺の山号は金龍山。普賢寺は高龍山。龍が入っています。浅草寺の末寺の中でも高き龍の座に属していたことがわかります。『浅草寺日記』に詳細があります。



次に院号です。これが普賢寺の最大の特徴でもあります。明王の中で一番有名な明王はなんといっても不動明王です。この不動明王が、普賢寺の本尊です。寺号の普賢菩薩は現在寺院にはありませんが、理知と慈悲を司る仏ですので、その意味も含まれております。このように寺の正式名称を見ると、どんなお寺なのかの輪郭を見ることが出来ますね。



不動明王



論ももそ 教弘



そもそも法事って何だろう

皆さんがお寺に来る目的で、一番多いものが法事ではないでしょうか。その法事とは、そもそもどういう意味を持つものなのでしょうか。

法事を理解するには、「供養」の概念を理解する必要があります。供養とは、仏様に真心を込めてさげろという事です。その供養という行為こそが、仏教では尊いことだと考えられております。また、日本に置いては、その供養も死者や故人に対しては、その供養になっております。そして、その供養は他に転化するこゝとが出来ます。それを回向と言います。自分が積んだ功德を他の人に分け与えるのです。それを故人や人に行うことを追善供養と言います。

そのため、法事とは追善供養と言っても過言ではありません。供養を行って、故人の冥福や安楽を祈る行為の総称なのです。その供養こそが法事に凝縮されているのです。僧侶と共に、灯明、お香、お花、供物を捧げて読経を行う。これが故人にとつての供養なのです。

ですが、故人にとつて最大の供養とは何かというのを考えますと、今を生きていらつしやる皆さんが生き生き毎日を生きることにあつて思つております。その様子を見せて、報告することが最大の供養になります。法事の意義だと思つております。



この一冊!

仏教関連のオススメの本を紹介します。



一日一生

著者：酒井雄哉
出版社：朝日新書
出版日：2008/10/30

■概要

比叡山には千日回峰行という過酷な修行があり、その過酷な修行を2度も達成した「生き仏」とも称された酒井雄哉阿闍梨のエッセイです。誰にもわかりやすい言葉で書かれてあり、「人生とは」、「人とは」という言葉がスッと入ってきます。一日を一生と思つて生きる。酒井阿闍梨の思いが綴られております。

■著者紹介

酒井阿闍梨は、僧侶になる前は職を転々とされ、事業にも失敗し、奥様も自殺で亡くされた壮絶な人生を歩まれておりました。僧侶になったのは、39歳という年齢でしたが、そこから2度の千日回峰行をされ、人の何倍もの濃い人生を歩まれた僧侶です。平成25年に逝去されましたが、今も語り継がれる伝説的な僧です。

■読みどころ

「一日が一生」という気構えで生きていくと、あんまりつまらないことにこだわらなくなるよ」
この言葉で随分、楽に生きられるようになってきました。どこから読んでも、読むことが出来、簡易な言葉で書かれているので、辛い時にふっと手を伸ばしたくなる本です。

Info

1. 普賢寺のロゴが出来ました!



天台宗の宗紋にもある菊を基台に、蓮の花が咲いています。その真ん中の梵字(サンスクリット文字)は、普賢寺の本尊不動明王を表すカーン。不動明王が蓮の中で護ってくださる。そんな思いがこもったロゴです。

2. 普賢寺の職員が増えました!



名をケニ一と言います。窓からひょこっと出現するのでなでてあげてください。

ボウズ紹介

小野常寛

改めまして、普賢寺法嗣(跡継)の小野常寛(じょうかん)です。この度、寺に戻つてまいりまして従事いたします。ですので何卒よろしくお願ひします。簡単に今までの経歴を書かせていただきますので、共通点等ございましたら是非お話しさせていただきます。

都立国際高校卒業後、一般大学に進学



在学中に比叡山修行。アメリカオレゴン留学。卒業後、組織コンサル、〇会社を経て、起業。現職に至る。法務の傍ら、企業、学校、塾などで講演を行っている。